コラム

## やってみよう！ 備える仙台

### 仙台市防災・減災アドバイザー

防災講座の様子▶

平成15年5月の宮城県沖を震源とする地震を契機に、仙台市は大地震に備え、市民の皆様への防災普及啓発を担う「仙台市地震防災アドバイザー」を配置しました。その後、東日本大震災や関東・東北豪雨を経験し、多くの教訓を得て、地震のみならず様々な災害への備えをお伝えするため、平成30年4月より「仙台市防災・減災アドバイザー」と名称を改め活動しています。初代から数えて5代目となる及川由佳里アドバイザーから活動を紹介します。

消防官としての経験を踏まえた話に加え、初めての女性アドバイザーということで、女性ならではの目線を交えながら、より身近で実践的な防災対策をお伝えしています。テレビやラジオ、広報誌などによる防災・減災のPRをはじめ、市民センターや地域主催の防災講座、小学生から大学生までを対象とした防災授業、企業や各種団体主催の防災研修会などを幅広い世代の方々と一緒に、自分たちにとって必要な備えは何なのかを考え、実際に行動につながるような話ができるよう心がけています。防災に興味のない方々をいかに振り向かせるかがアドバイザーの役目だと思っています。防災・減災に「楽しさ」を加えて、より多くの方々に備えの大切さを伝えられるよう頑張っています。

**【及川由佳里アドバイザーから簡単にできるおすすめの防災術を紹介します】**

災害は、いつどこでどんな状況の時に起こるかわかりません。どこで被災しても大丈夫なように、いつものバックに防災ポーチを入れておくことをお勧めします。ポーチの大きさや中身は自分にあったものを選んでください。例えば、緊急時に助けを求めるホイッスル、夜間用のライト、衛生を保つためのウェットティッシュ、ケガに備えて絆創膏、防寒対策のアルミブランケット、そのまま食べられる非常食、情報収集・連絡手段に欠かせない携帯電話充電用バッテリー、そして、気持ちを落ち着かせてくれるのが自分の好きなキャンディーやチョコなどです。防災ポーチは、季節によっても必要な中身は変わります。時々点検して、いつでも役に立つアイテムを入れておくようにしましょう。

仙台市危機管理室減災推進課 TEL 022-214-3109 FAX 022-214-8096 E-mail kks000130@city.sendai.jp
HP https://www.city.sendai.jp/gensaisuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/sonaete/adviser/index.html

お知らせ

## 仙台防災未来フォーラム2020

―― 東日本大震災から9年　これまでの歩み、これからの思い ――

「仙台防災未来フォーラム」は、東日本大震災の経験や教訓を未来の防災につなぐため、皆様とともに防災について学び、考えるイベントです。
6回目となる今回は防災の専門家による基調講演のほか、様々な立場の市民の方々がそれぞれの言葉で震災の経験や教訓、その後の防災・減災活動を振り返るパネルディスカッションを行います。参加無料。事前申し込み優先です。

最新情報は、ホームページや Facebook をご覧いただくか、以下運営事務局までお問い合わせください。

・基調講演・パネリスト ❶今村 文彦氏（東北大学災害科学国際研究所 所長・（一財）3.11 伝承ロード推進機構 代表理事）
・コーディネーター ❷菅野　拓氏（京都経済短期大学経営情報学科 専任講師・人と防災未来センターリサーチフェロー）
・パネリスト ❸菅原 康雄氏（宮城野区福住町町内会 会長・菅原動物病院 院長）
❹大場 留理子氏（若林西せせらぎ会 会長・地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く 2016」受講生・仙台市地域防災リーダー（SBL））
❺白土 瑞樹氏（311「伝える / 備える」次世代塾受講生・宮城大学事業構想学群地域創生学類３年生）

日 時 2020年3月14日（土）13:45～16:00 [13：15受付開始] 主 催 仙台市
会 場 エル・パーク仙台 6階 ギャラリーホール（地下鉄南北線「勾当台公園駅」下車）
申込方法 2020年3月11日㈬17時まで以下のいずれかの方法で運営事務局へお申し込みください。
◆ホームページ◆電話◆FAX（お名前、ご連絡先をお知らせください。）

※本イベントは手話通訳・要約筆記付きです。※託児あり。事前申し込みが必要です。詳しくはホームページをご覧いただくか仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室までお問い合わせください。
※イベントの中止、または内容や出演者に変更がある場合、ホームページなどでお知らせします。

仙台防災未来フォーラム2020運営事務局 TEL 090-2952-0251（土日祝日を除く10～17時） FAX 022-395-6908
HP https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2020/ Facebook https://www.facebook.com/sendai.bosaimiraiforum/

### ●「令和元年度防災シンポジウム・第15回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム」を開催します

「地域コミュニティの更なる充実のために」をテーマに、有識者及び防災減災活動をしている方々の講演や救護の達人コンテスト等を通じて、地域防災について考えるイベントです。ぜひご来場ください。

▲救護の達人コンテスト

日 時 2020年3月16日（月）13:00～16:30 [12：30開場] 主 催 仙台市
会 場 宮城野区文化センターパトナホール（コンサートホール）（JR仙石線「陸前原ノ町駅」下車）

仙台市危機管理室減災推進課 TEL 022-214-3109 FAX 022-214-8096 E-mail kks000130@city.sendai.jp


EXPERIENCE SENDAI FUTURE
経験をつなぎ、そして未来へ
防災環境都市・仙台

発　行 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1
ＴＥＬ：022-214-8098
ＦＡＸ：022-214-8497
E-mail：mac001605@city.sendai.jp

発行日　2020年2月


▶「えーる」は防災環境都市・仙台ホームページにも掲載しています。
https://sendai-resilience.jp/
仙台市の取り組みから、市民の方々の取り組みまで、より詳しく紹介しています。

タブレットでも！スマホでも！

この印刷物は「再生紙」を使用しています。

防災環境都市・仙台ニューズレター YELL（エール）

# えーる

「伝える」「繋げる」「備える」を応援する
防災環境都市・仙台の市民情報誌です。

仙台市では、「杜の都」の豊かな環境を活かしながら、防災力のあるまちをつくり、ひとをはぐくむ「防災環境都市づくり」を進めています。「えーる」では、防災・減災や環境に関わるさまざまな分野で活躍する“ひと”に注目し、その取り組みを紹介していきます。

2020 No.13

テーマ
仙台から
世界へ、未来へ

表紙インタビュー
伝える仙台

仙台防災未来フォーラム
クロージング登壇者のみなさん

左から宮城県立仙台第一高等学校 2年 渡辺 夏歩さん、高橋 凜圭さん、幡 舜介さん、庄子 沙也加さん、松永 充樹さん、仙台市立南吉成小学校 6 年 堀内 夕太朗さん

## 私たちが考える未来の「防災環境都市・仙台」

私達は、2019年11月10日に開催された防災3イベントを見学し、「仙台防災未来フォーラム」のクロージングで「防災環境都市・仙台」についての作文や、イベントの感想をステージ上で発表した６人です。参加を通して、多くの外国の方々が仙台に集まり、東日本大震災の経験と教訓や防災・減災について議論し、その共通認識を世界中に広めていることを知り、とても感動しました。「仙台防災未来フォーラム」で感じたのは、多彩な防災・減災活動に関する展示やワークショップ体験を通して、震災の経験・教訓や防災の活動・技術を仙台から発信し、世界の、そして未来の災害対策に役立てていこうという人々の熱意です。また、「世界防災フォーラム」で見たドキュメンタリー映像から、津波被害の大きさや被災した方々の悲惨さを改めて実感しました。「震災対策技術展」では空気から水を作る技術や、災害時でも美味しく食べられる非常食など、災害対策の技術が大きく発展していることに驚いたことも印象深いです。

フォーラムの見学をきっかけに、家族と防災について話し合い、家の中での災害対策の見直しや、ハザードマップを見て避難場所の確認をしました。他にも環境保全と防災の共通点や街の中にある災害対策設備の発見など、それぞれに防災意識を高めることが出来たと思います。同時に震災や防災について、私達が知らないことがまだまだたくさんあると気づかされました。日本国内の人達、特に私達のような若い世代の人達にも、防災・減災にもっと関心を持ってもらう必要があると思います。仙台一高の参加メンバーは学校の広報誌に、フォーラムでの体験から得た学びや気づき等を詳しく掲載しました。この経験を一過性のものにすることなく、これからも自分達の防災意識をより高め、普段の暮らしに取り入れながら、「防災環境都市・仙台」が市民により一層根付いていくように、学校の友人や身近な人達から、防災・減災の大切さを少しずつでも伝えていきたいと思っています。

▲取材時の様子

▲仙台防災未来フォーラムでの登壇の様子

### クロージング登壇者 プロフィール

宮城県仙台第一高等学校はスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けており、カリキュラムで防災講演会や「災害研究ゼミ」が設定されている。高校生メンバー５名は災害や防災について学び、関心を深めてきた。
小学６年生の堀内さんは、「仙台防災枠組」の市民講座に親子で参加。小学校３年生の時に、新聞社主催のワークショップに参加し、災害や防災について学んでいる。
みなさんの作文は HP にて公開中（https://sendai-resilience.jp/efforts/residents/composition.html）

テーマ・インタビュー
繋げる仙台

# 仙台のBOSAIを世界へ、未来へ繋いでゆくために

2019年11月、「世界防災フォーラム」、「仙台防災未来フォーラム」、「震災対策技術展」の３つの防災イベントが仙台国際センター等で開催されました。これらの防災イベントに主催者として関わられたお三方による座談会を開催し、その成果と意義についてお話を伺いました。


(写真左から)

国立大学法人 宮城教育大学特任教授
国立大学法人 東北大学災害科学国際研究所学術研究員(教授)
3.11 メモリアルネットワーク　共同代表
**武田 真一氏**

(独)国際協力機構 東北センター
(JICA東北)次長
JICA研究所上席研究員
**三村　悟氏**

福住町町内会副会長 防災減災部長
高砂小学校支援地域本部 スーパーバイザー
仙台市地域防災リーダー(SBL)
**大内 幸子氏**


## 仙台から国内外へ発信する、市民の防災活動

**―― イベントの開催について、どんな印象を持たれましたか。**

**武田** 世界中から多くの人が集まり、ともに防災を考え、震災を振り返り、未来を展望し、発信する３つの防災イベントを、この仙台で同時開催できた意義は大変大きかったと思います。あれだけの大災害を経験した仙台で、研究者だけでなく市民レベルでも、今どんな取り組みをしているのかを確かめて頂けた事が最大の成果でした。

**三村** 国際的な会議である世界防災フォーラム（以下、WBFとする）に未来フォーラムが加わったことで、仙台市民の防災の取り組みを海外の方にも伝えることができた成果はとても大きいですね。また今回のイベントではSDGs※1、「持続可能な開発」と災害の関係性が強く意識されていた事も印象的でした。例えば「ジェンダーの平等」では、防災に生活者としての女性の視点が不可欠です。防災の観点からもSDGsを進めなければならないという認識が共有されたことは大きな成果であり、２年前からの前進です。

**大内** 今回初めて、未来フォーラムのコンテンツの１つとして、福住町町内会の防災訓練体験ツアーを実施することになりました。参加者の方々から当町内会が減災に力を入れていることに高い評価を頂き、また展示した24個の減災ブースがとても分かりやすかったとの感想を頂いています。市民レベルでの実践的な取り組みを見て頂けましたね。

**三村** JICAの研修でも、海外の防災関係者の方々から町内会でうかがうお話が非常に興味深いとのご意見を数多く頂きました。行政による公助がこれほど充実している日本で、町内会でもここまで深く共助・自助による防災・減災に取り組んでいることが、大変参考になるのだと思います。

▲福住町防災訓練の様子

## 「仙台防災枠組」の実践的取り組みを世界へ

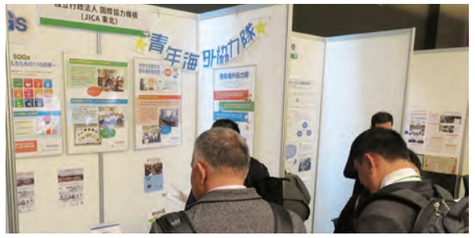
**―― 海外からの来場者は、何に関心を持たれていたと思いますか。**

**三村** JICAのセッションや基調講演では、「仙台防災枠組」の進捗が思わしくないという共通認識が示されました。また、これまでの「日本の経験を学んでください」という一方的な発信から、海外からの参加者同士の横の繋がりや学び合いが見られたことが非常に印象的です。さらに、多くの参加者が、未来フォーラムに高い関心を示しており、仙台のコミュニティの人々が防災にコミットし、楽しそうにイベントを行っているのを見て、「ぜひ、これを自分の国でもやってみたい」と話されています。新しいものを生み出すには、新しい学びとともに、イノベーションやパートナーシップへの取り組みが必要なのだと感じました。

**大内** 「仙台防災枠組講座」を受講して、最初は一般の人にはとても難しいという印象を持ちました。だんだんに認知度や理解度は高まっていますが、より多くの市民に枠組を浸透させていく必要を感じています。今は自分が説明する側になり、「『仙台防災枠組』があることで、防災・減災活動がとてもしやすくなったので、皆さんもぜひ覚えてください」とお話しています。枠組には女性や子どもが防災活動を支える主体である事が明言されており、また実際の避難所運営などでも、女性の視点がとても重要になります。私は地域の立場から、自分の言葉で、震災の経験や教訓、防災活動や伝承も含めて、「仙台防災枠組」を伝えていくことが大切だと思っています。有事の時、消防や公助の手は、なかなか届きません。地域を守るためには、自分達で自助・共助を学ぶ必要があります。文化も言葉も違う海外の方に地域のコミュニティや防災訓練を伝えるのは難しいので、出来れば実際に見て、体験してもらうのが一番いいと思っています。

**三村** 福住町の防災訓練は、まさに「仙台防災枠組」の実践事例ですね。大内さんが話された、枠組を勉強することによって防災活動がしやすくなったという話は、とても素晴らしいと思いました。枠組の理念の一番大切な事は、「備えに勝るものなし」だと思うのですが、欧米では災害を受けたらどうするかというレスポンスの議論になりがちです。2015年の国連防災世界会議で、仙台市をはじめとする東北の経験を踏まえた議論がなされ、その成果として、災害への「備え」を取り入れた「仙台防災枠組」が世界に認められたことは、とても画期的なのです。

**武田** 国連防災世界会議がなぜ仙台で開かれたか、そして世界をリードする災害対応計画の理念である「仙台防災枠組」がこの仙台で採択された事実を、仙台市民は知っておかなければならないし、こうした防災イベントを通して、発信・共有の場を作る事が重要だと思います。震災を経験した市民が防災に取り組む本物の姿を世界中の方々にも見てもらいたい。そしてまた今後は、防災訓練などに実際に参加・体験してもらえる企画を増やせたら良いですね。



▲仙台防災未来フォーラム展示の様子

## 未来へ向けて進化する、次世代の「BOSAI」

**―― 今回の開催から、どのような展望を持たれましたか。**

**武田** フォーラムのセッションでは、宮城教育大学の「311いのちを守る教育研修機構」の理念である「災害を乗り越えられる子ども達を育てられる教員の育成」について発信しました。教育もひとつの「伝承」であり、「震災の経験や防災を次の世代にどう伝えていくか」も、全体として大きなテーマになっていたと思います。
また、この２年間で企業からの防災への参画が大きく進展してきたことを感じました。これまでは研究者や行政等からのセッションが多かったのですが、若い起業家などがマルチステークホルダーの一人として自信を持って発表しているのがとても印象的でした。企業等のあらゆるセクターが防災分野に関わり、ビジネスにしていく中で様々なアイディアが生み出され、新しい防災技術が定着し、経済活動として持続していくという側面も大変重要だと思います。

**三村** 今回企業など色々な主体が具体的なアイディアを出しており、ステージの上の人も下の人も一緒になって考える形に変わってきて、とても良い形に進化していると感じました。

**武田** そうですね。学生などが当事者として参加する傾向が見られたのは、大変良かった。「伝承」という意味で、私達も学生が繋ぎ手になってくれる事を願っており、学生達を主体として位置づけた事は大きな進化だったと思います。

**大内** 町内会の防災訓練で言えば、中学１年生では訓練に消極的だった子が、３年生位になると自分がやるべきことがわかってきて、後輩を引っ張っていくようになり、そして自分の命は自分で守らなければならない事を理解するようになります。学校だけでなく、地域や行政も関わり、家庭に浸透させていくことも大切です。防災訓練では子ども達に、大人になった時には自分達が次の世代の子どもや地域の人を守っていかなくてはならないと必ず伝えています。

**武田** 防災イベントをはじめ防災訓練等も、ある意味、次の世代に伝えるためにある訳ですね。子どもから大人まで、地域住民、行政や研究者、そして企業も、皆が集まり、改まって防災・減災を考える場を作ることがとても重要なのだと思います。防災環境都市として仙台市がリーダーシップをとり、防災・減災の重要性を国内外に発信し、浸透させていく事は、仙台市にしか出来ない事だと思います。

▲仙台防災未来フォーラムでのセッションの様子

**第２回 世界防災フォーラム（WBF）：2019.11.9～12**

スイスの防災ダボス会議と連携した国際会議で 2017 年から２年ぶり２回目の開催。国内外から集まった産・官・学・民の防災関係者が、「仙台防災枠組 2015 -2030」の推進及び「BOSAI」の主流化を仙台から世界へ浸透させることを目的に多彩なセッションを展開。

**仙台防災未来フォーラム：2019.11.10**

国連防災世界会議が仙台で開催された翌年から、今回で５回目の開催。防災の担い手である子どもから大人まで、多くの関係者（ステークホルダー）が、自分たちの取り組みを発表・共有し、世界へ、そして未来への継承に繋いだ。

**「震災対策技術展」東北：2019.11.10～11**

阪神・淡路大震災を機に開催され、2013年より毎年仙台で開催。一般市民や事業者の関心度の向上及び産業振興を図ることを目的に、企業等の地震対策や自然災害対策の最新技術や防災関連の製品、サービス等が一堂に展示され、セミナー等も実施。

※1 2015 年９月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals の略称。国連加盟 193か国が2016年から2030年の 15 年間で達成するために掲げた目標で、17 の大きな目標とそれらを達成するための具体的な169 のターゲットで構成されている。"SDGs の目標 11 では、仙台防災枠組とリンクしたターゲットが以下の通り策定されている。

11b. 2020 年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組 2015-2030 に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

## せんだい3.11メモリアル交流館
Sendai 3/11 Memorial Community Center

東日本大震災の記憶と経験を継承するためのさまざまな取り組みを有機的に結び、未来や世界へとつないでいく拠点として、2016 年２月、地下鉄東西線荒井駅舎内にオープン。交流スペースや展示室、スタジオといった機能を通じて、みんなで、震災や地域の記憶を語り継いでいくための場所です。交流スペースやスタジオは、各種ワークショップなどに使用するほか、震災や地域の記憶を伝えていくための市民活動の場としてもご活用いただけます。

今回座談会の会場として使用しました。

住所 仙台市若林区荒井字沓形85-4
（地下鉄東西線荒井駅舎内）
開館時間 10:00-17:00　TEL 022-390-9022
休館日 毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）／
祝日の翌日（土・日曜日、祝日を除く）／年末年始、臨時休館日
アクセス 地下鉄東西線仙台駅から荒井行きで13分
E-mail office@sendai311-memorial.jp　HP http://sendai311-memorial.jp